

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。〔13番 伊藤文博君登壇〕

○13番(伊藤文博君)

新政会、伊藤文博です。

通告書に基づいて、2点について質問いたします。

1、世界ジオパーク認定を契機とした糸魚川市活性化について。

世界ジオパーク認定は糸魚川市活性化の最後のチャンスであります。市職員全員が、あらゆる業務を可能な限り「ジオパーク」と結びつけた発想、一つ踏み込んだ工夫の習慣をつけて、市民に深く浸透させる努力を惜しんではなりません。

ジオパークをツールとした糸魚川市活性化への取組状況について伺います。

(1)市職員へのジオパーク活用の浸透状況は。

(2)糸魚川駅からの観光客の目線での、受入体制チェックは。

(3)観光案内所、サテライトオフィスの整備状況と設置運営に関する基本的考え方は。

(4)交流観光課の取り組みの基本姿勢は。

(5)新幹線開通までの取り組みと新幹線開通後をにらんだ取り組みの両方が求められますが、それぞれをどのように考えているか。

2、子宮頸がん予防ワクチン接種費用助成について。

ウイルス感染で発症し若い女性に急増している子宮頸がんを予防するため、ワクチン接種費用を助成する制度が全国的に広がっています。

同じ新潟県の魚沼市が全国で初めて全額助成を決定し、6月1日から接種を開始しております。「ワクチンで予防できる唯一のがん」として、糸魚川市の保護者からも助成制度に対する期待が高まっています。

糸魚川市における子宮頸がん予防に対する取り組み状況と今後の見通しについて伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、部課長会議や職員研修など機会を通じて啓発を行ったことから、各課でジオパークが活用されるようになってきておりまして、今後も引き続き職員への浸透に努めてまいります。

2点目につきましては、糸魚川駅から観光案内所までの効果的な誘導につきましては、関係者との

調整を行いながら対応することといたしております。

3点目につきましては、糸魚川ジオパーク協議会で案内機能の充実のために、7月1日までに設置、運営できるよう観光協会、またヒスイ王国館など関係者との調整を行っております。

4点目につきましては、あらゆる取り組みをジオパークと関連づけ、関係者の意識の高揚や啓発を行い、情報発信をしながら交流人口の拡大に努めてまいります。

5点目につきましては、世界ジオパークのまち糸魚川として受け入れ体制の充実と、ジオパークの国内外への普及に取り組む必要があると考えております。

新幹線開通に向けて糸魚川ジオパークの認知度を高め、首都圏等から多くの方が糸魚川へ訪れられるよう、旅行会社への営業にも努めてまいります。

2番目につきましては、保坂 悟議員、鈴木議員のご質問にもお答えいたしました。助成する方向で今検討をいたしております。

予防の取り組みであります。早期発見、早期治療のためがん検診の必要性を周知しながら、受診率の向上を図っていきたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部。課長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

2番目の子宮頸がん予防ワクチンのほうから再質問いたします。

私は多くの方々から、糸魚川市はこの予防ワクチンの助成をしないのかと、どうしてやらないんですかというふうに聞かれています。それだけ関心が高いわけですよ。私は5人の子どもの親として、また2人の娘の父親として、3人の息子がまた結婚すれば、5人の娘の父親となると。あんたがやらずにどうするんだというような話の中から、今回は取り上げることになりました。

市民にとっては将来を考えたときに、かなり切実な問題だと思うんですよ。病気はたくさんある、がんも種類がたくさんあるんですが、原因がはっきりしている唯一のがんであって、予防ができる。また唯一のがんである。だから魚沼市がいち早く助成を決めた。これは市長が女性だからという問題ではないと思うんですよ。うちの市長さんもお二人の娘さんの親であるということから考えて、やはり自分の周りを見ても、多くの方がこの問題と関係していると思うんです。

まず、子宮頸がんのそういう特徴をよくご存じだと思うんですが、その特徴を知って、この予防可能ながんから糸魚川市民をどういうふうにしていくのかという、その基本的な考え方ですね、手法ではなくて。まずどう取り組みたいか、どういう状況をつくっていききたいのかということについて、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

○健康増進課長(伊奈 晃君)

お答えいたします。

このがんワクチンが出たことによりまして、確実に防げると。100%ではないという今の現状ですが、唯一のがんであるというふうなお話がありました。そういう確立された方法ができたわけですから、行政としても当然できる限り対応していかなきゃいけない。このことによって女性のがん予防対策を取り組んで、将来的には当然発症者が減少していくと思いますが、これのほかに、やはり検診等もあわせてやっていく。両輪でやっていかないとだめだと思いますので、今後そういう2つの考え方をあわせて、やっていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

目標としては、今言われたことを要約すれば、糸魚川市の子官頸がんにかかる可能性がある女性を、この病気から守りたいというのが、基本姿勢だということですよ。そのためには予防接種と検診をセットで、市民に受けてもらいながらということですから、目標と手段ということになりますね。その手段を考える上では、今の大目標を忘れないで、忘れるわけもないでしょうが、強く認識しながら決定していただきたい。

魚沼市の後に南魚沼市と、それから湯沢町が、中学生8学年を全体を対象に全額助成を決めております。こういうふうに自治体によって差があるわけですが、山梨県では知事が、山梨から子官頸がんを撲滅できるかもしれないということを書いて、1万5,000円を上限に助成を決めた。それをもとに全市町村が取り組む姿勢を明らかにしている。これは山梨県庁の話だそうです。となってくると、国や県の取り組みというのが非常に大切になってくる。糸魚川市独自の取り組みも当然大事ですが、国や県との連携というのは、今現状でどうなっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

○健康増進課長(伊奈 晃君)

お答えいたします。

今のところ新潟県と国とあわせまして、そのような連携は今のところございませんが、今後は県等に対しまして、要望をしていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

私も市民厚生常任委員会のメンバーで所管事項なんですが、このところ非常に動きが激しいんですね。例えば6月9日の段階の日報では、約90の自治体が助成を決めてると言っていますが、もう17日には、今の山梨県全市町村、27市町村がというような話が出てきていたり、一方では鹿児島ですか、もうやはり県単位で助成していくというようなことになっています。今、新潟県や国との連携がまだということですが、やっぱりちょっと遅いと思います、取り組み姿勢としては。

住んでいる地域や所得によって、こういう問題に対して格差が生じてくるというのは非常にまずい。国、県が取り組む前に、やはり糸魚川市が取り組むことも必要になってきますね。その国、県の連携を含めた糸魚川市の単独の取り組みについての姿勢ですね。今どうするということは、具体的にはこれからでしょうか。取り組み姿勢について、お答えいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長 吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

今ほど国、県という形でお話があったところですが、今のところまだ国、県が助成するという話はありません。したがって、私どもは今、地方分権ということで市長のほうから、市長は助成をしていくということでお答えをさせていただいております。ただ、私どもも財源的には厳しいわけがございますので、今後、県の市長会、あるいは北信越の市長会という形で、国が予防接種という形で、きちっと取り組んでいただくよう要望を上げてまいりますし、また、県についても、やはり一部負担をしていただきたいというふうに考えておりますので、要望として上げていきたいというふうに、今取り組んでいる最中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

市町村の取り組みが国や県を動かすということもあるんだと思うんですよ。そこで糸魚川市が、そのために先に動くということではないでしょうが、やはり積極的に取り組んでいくことによって、地元の地域振興局を通じてということもあるでしょうし、直接今言われた市長会を通じてということもあるでしょうし、やはり積極的に取り組みをしていっていただきたい。単独の面と、それから国、県への連携という面で、ぜひ強い取り組みをお願いしたいと思います。その点について、もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(倉又 稔君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

## ○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

やはり今ほど担当がご答弁させていただきましたが、この子宮頸がんについては非常にはっきりしとる、投資対効果というのが明快にわかるものでございますので、こういうものについては積極的に取り組んでいこう。今、国も地域主権を言っておるわけでございます、常に県、国の動向を見ながら待つという形ではなくて、やれるものはやっていこう。そして連携をとるものはとらなくちゃいけないわけでございます、まずはやはり市民の安全・安心や生命の確保は最優先というところから考え方でございまして、今そのような感覚でおります。

そして前段でのご質問にもつながるわけでございますが、この地域はやはり自分たちでしっかり守って進めていく基本で、いかなくはないんだらうと思ってる次第でございます。連携も大切であるわけでありまして。我々は今までの流れを見ておりまして、地域医療に対してもそうでありまして、しっかり自分たちのこの感覚、自分たちの地域をしっかり見守った上で進めていきたいと思っている次第でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

このフクチン助成については取り組み姿勢といいますか、それが非常にしっかり強いのもであるということを確認しましたので、これからまた具体的になっていく段階で、いろいろと議論を重ねていきたいと思っております。期待しておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、ジオパークのほうに移ります。

まず最初に、言わずもがなのところではあるんですが、市長は糸魚川市をジオパークでどうしたいのかというところを、もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

ジオパークを使っていろんな面で、我々は今地域課題や、いろんな諸課題があるわけですが、そういったものを地域振興、そしてまた交流人口、また教育や文化的な部分について、生かしていきたいと思っておる次第でございます。我々の恵まれた自然環境、そしてまた自然資源や鉱物資源を最大限に活用して行政運営、または市の発展に、つなげていきたいととらえている次第でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

その目指すべき姿があって、そこを実現するための手段があると。さっきのワクチンと同じことなんですが、交流人口の拡大というのが、地域にもたらす影響は非常に大きくなっている。そのためには教育の問題も含めて、地域全体での盛り上がりが必要だということになると思うんですね。

交流人口の拡大ということになると集客とおもてなし、交流人口拡大プランがありますが、この基本構想と実施計画を見ている中で、いろいろ感じていることもありますので、質問の中で取り入れていきたいなと思っています。

市職員のジオパーク活用の浸透状況はというところですが、私は連続してこの問題を取り上げています。今回どうしてもやりたかったのは、4月に交流観光課ができてスタートラインの議会だから、どうしても基本的なところを確認しておきたいということで取り上げしております。

市の職員が、一見関係のない業務をやっている人も、ジオパークに何とか絡めていこうというような工夫をしていく姿勢が必要だと思うんですね。そこまで今、市の職員の意識が高まっているかどうか、一番足元のそのあたりはどうなのか、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

私ども担当課としましては、各種関連事業におけるそれぞれの課と直接的な連携をはじめ、特に庁内LAN、パソコンですけれども、ネットワークによる情報の提供や、事業の協力のお願いを常にさせてもらっています。

そういう意味では、ジオパーク事業の啓発と情報の共有というのは、職員間でも以前よりは、はるかに共有が図られているというふうに思っておりますし、1つの例として、具体的な例なんですけど、マスコットキャラクターの「ジオまる」と「ぬーな」というのがあります。これらの活用も非常に現在空きがないほど、それぞれの事業に登場願っております。

そういう意味では、こういうものを通して、それがすべてだとは言えないまでも、この事業の意義というのは職員には、少しずつではありますけれども、浸透してきたものだというふうに理解しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

田鹿総務課長。〔総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務課長(田鹿茂樹君)

職員研修という立場からお答えを申し上げます。

今、議員がおつしやられたようにジオパークを知って、いろんな意味で生かすということは大変重要なことだというふうに考えておりますし、職務の中でどれだけジオパークを知っていて、それを生かせるかということを目的といたしまして、職員向けのジオパーク関連の研修を実施しております。

昨年度は5日間実施をいたしまして、研修に参加した職員は合計で120名でございました。まだまだ全職員からみますと、約4分の1、5分の1程度であります。この研修に参加した職員は、改めてまたジオパークをどう生かすかということが、よくわかったということをおっしゃるので、今後もアフター5研修等を通じまして、本年度もジオパークの研修について、職員に実施をしていきたいというふうに考えております。

なお、発想をそれぞれ職場の中で生かせる部分と、生かせない部分がありますが、すべていろんな意味で業務の中で生かせるよう、今後も総務課としては指導してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

取り組みはわかりました。それが本当に定着するには、やはり根気が必要だと思うんですね。やっぱり繰り返し、繰り返し根比べみたいところがあると思うんですけど、そういった取り組みをお願いしたいと思います。

市の職員だれに聞いても、ジオパークといったら何だと。今どこに見に行けるのと言ったら、ここここは見えますというような状況になっているかということも大事だと思うんですよ。観光客が来て、まちの人に聞いてジオパークって何ですかって聞いたら、おらは知らんねという話がある、これはある程度やむを得ない。その前に市の職員全員が、だれが聞かれてもわかるような状況をつくっておかないと、市民にそれを求めるのはちょっと酷ですよ。だけど市民にも、そうならんわいわけですよ。まず、職員のその状況はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

田鹿総務課長。〔総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務課長(田鹿茂樹君)

お答え申し上げます。

全職員まで、先ほどお話したように、浸透しているかというのは、ちょっと私も理解はできませんが、基本的には職員が聞かれたらジオパークの一部でも紹介できるようにやっぱりすべきだと思いますし、職員としては、それは言えないというのは、資質の問題があるんじゃないかというふうにちょっと感じます。ただ、我々としては今後も粘り強く職員に、ジオパークの関係については浸透できるよう、また24サイトすべてが説明できなくても、一部のジオサイトでも説明できるように、指導してまいりたいというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

勉強して詳しくなることは、これは時間かかりますよ。聞かれたら答えられる、虎の巻ぐらい持



たせるぐらいなことをしないと、職員にそれを求めても酷なんですね、逆に言うと。だから条件を整えてやらなきゃいけない。聞かれたら、これを見ればちょっと答えられる。それどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

田鹿総務課長。〔総務課長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務課長(田鹿茂樹君)

お答え申し上げます。

職員に情報を、冊子も含めて出せというお話だと思うんですが、ジオパーク推進室が市民ロビーのほうに、ご自由にお持ちくださいというパンフレット、さらには各サイト、全部ではございませんが、ノート式の資料を出しておりました。私も何回かその資料をもらつたところでありますが、自由に持っていけということは、職員も当然のことながら自分の意識として持っていくべきだというふうには考えておりますけれども、そこまで我々としては、ちょっと徹底してなかったということもございますので、一部情報提供、資料提供は、やっぱりジオパーク推進室を含めて、職員にはちょっとどういうふうな提供の仕方があるか、検討させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

そこまで徹底した取り組みが、職員の意識を高めるんです。やりなさい、やりなさいと言って条件整備をしてやらないのは、やっぱりだめだと思いますね。ぜひ取り組んでいただきたい。

糸魚川駅からの観光客の目線で、受け入れ体制チェックというのは、これは本当は大事なことです。うちの新政会では6月1日の日に、勉強会でこれをやりました。担当課にもおつき合いいただきました。そこでいろんな議論をしております。

先ほど言った交流人口拡大プランを見ても、これは基本構想と実施計画というんですけど、その部分について、何もどこにも出てないんですよ。玄関口をどうしたいのかというのが、私にはちょっと読み取れない。どこかにあるんですかね、これ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

## ○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えいたします。

具体的には、やはり各事業の中で検証、ないしは実践していかざるを得ないというふうに思います。ただ、大卒年次ごとの拡大人口をもとにして、やはり組み立てる必要があるのではないかというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

ということは、この実施計画も入り口であって、これに対して細かいことを、順次いろいろ考えながら取り組んでいくということですよ。ということでもいいんですか、もう一度。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

## ○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

はい、そのとおりであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

というところに、やはりちょっとあいまいなところが出てくると思うんですよ。駅からの対策をちょっとチェックしてみると、先ほど市長の答弁にありましたように7月1日に観光案内所、サテライトオフィスを設置するということでしたが、3月まで地方の元気再生事業のサテライトオフィスが別の場所にあって、それが終わって閉鎖され、王国館でやるんだよと言っていて結局3カ月、大事なゴールデンウィークも、その体制が整わないまま進んでしまった。

やっぱり取り組みには優先順位があると思うんですよ。糸魚川市に来てもらった人が、だれに話を聞いて、とりあえずジオサイトが未整備であっても、まだ中途の状態であっても、とにかくそこまで行けると。例えば小滝へ行くには大糸線しかないんで、この電車で行って、ここからこういう

ふうにしてくださいというようなことを的確にお伝えするというのが、ほかの整備と相まって、もう一番最初に取り組みられていなければいけないわけですね。

ここは、人と人のつながりですよ。案内するというテクニックの問題じゃなくて、そこで人と人がふれあって、糸魚川に来た人が知り合いができて、そこで親しく話をする中で、もしかしたら話だけ聞いてお茶を飲んで帰っていったっていいわけですよ。そういうところをつくらなきゃいけない。それが後回しになっていることが、非常にこの問題については私は危機感を感じるんですが、どう考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えいたします。

まず、議員おっしゃるとおり、地方の元気再生事業で昨年8月から運用してきました糸魚川ジオパーク協議会の皆様から非常にご協力いただきまして、サテライトオフィスを運営してまいりました。

約8カ月で2,000人ぐらいの方にご利用いただいております。非常に関係者に感謝いたしたいと思っております。そういう意味では、情報発信は途切れてはならないというのは、議員がおっしゃるとおりだというふうに自覚しております。

そういう意味でもヒスイ王国館を利活用させていただきながら、特に案内所の設置としてジオパークが近年、非常に注目されておる中で、やはり情報発信がジオパークに関連しては非常に重要なことだと思っておりますので、観光協会のところを一部拡充しながらセットしてできないかというふうに協議を春からさせていただいてきました。

ところが、やはりヒスイ王国館の中のレイアウト関係、それから現実の観光協会の手狭な部分、それとあわせまして、やはり周辺テナントさんからのいろんな意見が出されるということで、なかなか調整がうまくいかなかったことは事実であります。

ただ、粘り強く関係者と調整を保つ中で、今回、階段下の、ちょうど観光協会の反対側になりますけれども、スペースを少し借用できるような形で、少しオープンスペースに近い形で、今ほど提案がありました、やはり人とのコミュニケーション、それを大事にするということで、一部はローカウンター、そして一部は開放という形で、既存のオープンスペース等を活用しながら情報発信なり、それぞれの来訪者の皆さんに対して適切な観光案内、あるいはジオパークの情報発信、そういうものに今後も努めていきたいというふうに思いますし、あわせて案内所を活用してもらうためには、やはり駅からの視線誘導というのが一番大事だと思います。そういう意味では、今アーケードの柱等を活用しまして、ばらばらの表示になっておりますので、糸魚川駅のほうとも担当者と協議させていただいて、理解が得られる範囲で駅の柱に張っていただくとか、それから出てすぐ目の前

の柱を活用しながらタクシーの利用とか、あるいは観光案内所への誘導ということで、視線誘導を1つの色使いとやっぱり統一したスタイルで今回セットして、オープンまでに間に合わせたいというふうな形で、今準備に入って段取りしております。

そういうことで多少おくれればせながら、精いっぱい私どもは情報発信に努めてまいりたいと思いますし、やはりそこに関係する人も含めて、十分な協議なりサービスができるような形で、今後も運営してまいりたいというふうに思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

その6月1日にチェックした内容に基づいて、ちょっと質問します。私の質問に対して、現状がどうで、これからどうするのかということでお答えいただきたいと思うんですが、今、視線誘導という話がありましたが、糸魚川駅におり立って、一番最初にジオパークというのを目にするのはどこで、それは駅の中に何か所あって、その表示によって、ジオパークとは何かという興味を持たすことができるか。または、ジオパークというのは、こういうことなんだということが理解できるような、ああ、ジオパークってこうなんだというようなことがわかるような、何か説明みたいなものがあるかどうか。それから、これからどうするかですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

現在ジオパーク情報としては、糸魚川駅のほうからご協力いただきまして、糸魚川ジオパークの情報コーナーということで、約1メートル20～30の幅でいろんなパンフレット、ないしは大き目の案内、宣伝をさせてもらっております。

ただ、それが今、糸魚川駅内で、どれだけの位置づけで目に入るかというのは若干疑問でありますので、やはり改札口をおりた正面にセットしていただけるような形で、糸魚川の駅のほうの関係者と今そういう形で協議に入っておりますので、やはり主なブースに展示していただけるような配慮をしていきたい。

それからもう1点、駅構内に関しては、非常に改札口付近駅への掲示は、駅舎としてもなかなか難

しい点がありますので、やはり最大限目に入る形で、今後は協議してまいりたいというふうを考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今2カ所なんですね。今言われたジオパークコーナーというのと、それから切符売り場のところにあるわけですが、これもどちらもジオパークの表示が小さいし、なかなか興味を持たすようなことになっていない。僕らも行って探さないと、ちょっと見つけられないというようなことになってますから、ぜひ改善していただきたい。

駅から今度は町並みを見たときに、さあ、ジオパークが印象づけられるか、ここが一番大事なところですよ。今、視線誘導で、これから柱を利用したりという話もありましたが、一部答えていただいたんですが、今現状がどうで、改革するべき点はどうかという観点で、お答えください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

駅を出た地点では、なかなかタクシー乗り場の掲示が非常に色あせていたり、それから視覚的にも、なかなか目に入ってこない今表示の仕方をされております。

それからもう1点、駅前のアーケード関係を含めまして、糸魚川ジオパークの発信というのは、真ん中に小さな公園があります。そこに道標的なものを立ててありますけども、世界認定の糸魚川ジオパークというのが1点しかありません。そういう意味では、もう少し大き目の看板なり表示というのが、必要な点なのかなというふうに思っております。

それから、観光案内所に対するアクセスの仕方が不十分ですし、ヒスイ王国館の前の扉にも多種多様なサインが入っておりますので、これらも統一化する必要があるのではないかなというふうに現状を把握しております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ヒスイ王国館の入り日のガラスのところですよね。これもこうしたいという話も聞いているんですが、外壁を見ても全くジオパークの表示がないんですよ。やはり王国館にとっても観光客の誘導っていうのは、非常に利害の一致するところだと思うんで、外壁にもぜひ考えてもらいたいなと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

お客様の誘客拡大には、お互いそれぞれの利害で一致する点が大いにあるというふうに思っておりますので、誘客拡大も含めまして、これから関係団体と協議させていただく中で、できるだけジオパークの発信を大きな展開にしていきたいというふうに思っていますので、今後さらに詰めていきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

観光案内所、サテライトオフィスも含めて王国館との連携ですが、今の観光案内所の向かい側にサテライトオフィスというものがカウンター形式でできる。それがスペース確保に大分苦労されたそうですが、感覚的に言えば、あそこにサテライトオフィスができて人が集まることによって、観光客の流れが自然と今の売り場のほうに向いてくることで、王国館と非常にお互いの利害がその面でも一致するんじゃないか。そういう観点で協議をすれば、もっとスムーズにいったんではないかと思うんですが、その認識というのは、お互いにどうなってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

## ○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

議員おっしゃるとおり、少なくともやはりお客様を呼ぶということでは、今ジオパークの事業を非常に集中的に展開しようとしている中で、やはり関連するお客様をヒスイ王国館でも同様に迎えるというのは非常に同一性ですし、そこにやっぱり増進する要素というのはたくさんあると思いますので、やはり自分のエリアだけをどうしても考えてしまうと、従来の方法ではなかなかうまくいかない部分があるのではないかと。もう少し大局的に考えていただいて、総合的な糸魚川市への誘客、自分の施設への誘客ということを考えていただければ、もうちょっと展開はあるだろうというふうに思いますので。

ただ、今回協議の結果、こういう形でご協力いただけましたので、さらにお客様がふえれば、またそれなりの意識も少しずつでも変化して、相乗効果としてあらわれてくるものというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

そういう意味で、あそこにカウンターの案内する場所ができる。オープンスペースじゃなきゃならんと思うんですね。そうするとあの通路も含めて、あそこにテーブルが置いてあって、イスが置いてあったりしますが、全体を1つのホールのような形で人が来て、いつでも座って、またいろんな話ができるというような形に、初めからそうしているのか、発展していくことを期待しているのか、その辺はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

## ○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

まず、初めての施設利用であります。そういう意味では、非常に私どもも関連する施設にお礼を申し上げながら、この開設に当たってスタートしたいと思っておりますけど、今のところどういう結果というのは、経過を見てみないとちょっとわからない部分があります。

1つは、カウンター形式ですと、やっぱり私は壁を取り払うというところの段階では、ハイカウンタ

一よりローカウンターのほうが、もちろんいいと思います。ただ、そうしたときには、どうしても滞在時間が長くなる。そうしたときに、やはり既設の今まであるようなオープンスペースを活用していただいて、少し丁寧で、厚い説明を加えることが、一番いい形ではないかなというふうに思います。

お客様は十人十色だと思いますので、ケース・バイ・ケースですけど、限られたスタッフの中で、できるだけそういうもの、あるいは1つ1つの場面を見ながら失礼のないような形で、糸魚川をPRさせていただきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

お互いの利害が一致する中で、今設置するまでに、これ3カ月かかっているわけですよ。さっき言ったように、本当はもっとスムーズにいいんじゃないか。そこはやはりちょっとコミュニケーション不足を感じるんですね。もっとお互いのことを考えて建設的に議論していけば、早い時期に早く結論を出していける。

過去のことを言うんじゃないで、これからのことについて、やっぱりそのところにちょっと危惧を感じます。やはりもっともっと観光協会とも、それから王国館ともコミュニケーションをとりながら、お互いがどうやったら活性化していけるのかという形の中の協力体制を、本当の意味で築き上げていかなければいけない。場所を借りる側で、貸してもらってお礼を言ってますなんていうことじゃ、多分ないんじゃないかなと思うんですが、そこについての考え方をもう1つお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

私どもは今、新たな場所でスタートするわけなんで、そういう意味で気構えといいますか、少しそういう話をさせていただきました。

将来的、ないしは理想的なことを言えば、やはり観光協会との連携もありますし、それからジオだけに特化することなく、今言ったような形で市内全域での案内というのも、これから重要になってくると思います。そういう意味では観光協会はまだ合併してない点もありますし、それらも含め



て、やはり広く、厚く情報発信ができるような形でまとめ上げていくといいますか、それぞれの関連する施設をうまく有効活用しながら、やはり糸魚川をしっかり宣伝していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今も言ったコミュニケーションのつながりなんですけど、その観光案内所、サテライトオフィスと、交流観光課の連携が日常的に保たれていくような仕組みといいますか、人の動きになるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

観光協会は、市でやってる観光事業の委託業務をやっていただいております。そういう意味では、日常的なつながり、各種事業を通じたつながりとか打ち合わせは、もう頻繁にやらせていただいております。

そのほかにジオのサテライトオフィスに関しては、今回は再出発になりますけども、当面はうちの職員が少し頭を出したり相談に乗ったり、あるいは日常の誘客に対する対応というものも含めて、一定程度軌道に乗るまで一定時間関わって、しっかりサポートしていきたいというふうに今のところ考えておりますので、この三者については私は心配なく融合が図られるだろうというふうに考えておりますし、そういうような努力をしていきたいというふうに思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

そのサテライトオフィスに常駐している方、これは聞いている話ではガイドさんということだそう

ですが、何人の方で交代になると。そうすると、その間にいろいろお客さんとの会話の中から出てきた問題点だとかいうものが、交流観光課のほうにしっかりと引き継いでいかれるためには、それなりの仕組みを考えていかなければだめだと思うんですね。7月1日からということですから、もうそれができていないと、今度はスタートするまでに逆に意思統一も必要でしょうから、そういう意味では準備が整っていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

今のところジオパーク推進室を主体にしまして輪番というのか、そういう形で担当を決めて、少し支援にまいるたいというふうに考えておりますし、それから一般客を受け付け、ないしは相談の中では、どのような案件で、どんな件数があったのかということも含めて、これから少しの間、ないしは必要であればずっと、内容についての研修も深めていきたい。それを次のステップに、しっかり生かしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

新政会で政務調査に行った兵庫県小野市では、市長がやってみなさいと。やってみて都合が悪いところは、どんどん直していけばいいんだというような取り組みの仕方もあると思うんですよ。そういう意味で言うと、今の案内所の問題も、今、課長が言われたような方針で取り組む上で、またどんどん、どんどん日常的に改善していただきたいと思うんですね。そのためにも、やはりコミュニケーションが非常に大事になると。

形式的な記録を残すとか、そういうことだけじゃなくて、本当の意味のコミュニケーションをしっかりとっていただきたいと思うんですが、その意思がないと、なかなかこれはできないことで、かなり努力が必要だと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

## ○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

ジオパークの構想そのものは、資源の保護もありますけども、それを地域振興に生かすというのが大前提になっております。議員が冒頭からお話のとおり、やはり最大のチャンスというふうに私どもはとらえておりますので、少なくとも今まで以上の覚悟を持って、糸魚川市のために頑張りたいというふうに職員一同思っておりますので、そういう意味でご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

最初に言いましたけど、しっかりと情報を伝えて、現地まで足を運んでいただくことが、とりあえず何を置いても大事だということですが、その面で、例えば観光タクシーとか、定期観光バスも含めて、新しい取り組みというのは何か考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

## ○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

JRのパフレットを見てみますと、駅から観タくんというような、いわゆる2次交通の確保のために、やはり市内のタクシー業者の皆さんからご協力いただいて、やはり低額料金、「ていがく」は定められた料金でなくて、安い料金のほうです。そういう意味で時間活用していただいて、サイトを見学していただくというような方向で、今タクシー業界の皆さんと取りまとめに入っております。何とか、うまくいくのではないかなというような状況になっております。ただ、運輸局等の許可を、これは認可行為でありますので、少し時間はかかるのではないかなというふうに思っておりますし、定期観光のほうも2、3本の数を、もう少しふやせないかというふうな形で、年間増発ということで、関係団体と少し今調整をさせてもらっております。

それからもう1点、ややもすると少し受け待ちといいますか、モーションをかけない観光行政が少し見えたやに私は思っておりましたので、特に大手エージェントさん、大手旅行会社、Nツアーとか、JTB、それから県内で言いますと新潟交通のくれよんさん、そういった皆さんからご協力いただく中で、私どもプログラムを提供させていただいて、やはりこちらに来ていただく、そういうプロモーションを少し強くことしさせていただいております。

新たに定期観光への誘客等についても、単純に遠隔地に行って案内をまくんではなくて、やはり北陸圏を中心とした日帰りが少し可能なようなエリアも集中して、今、宣伝PRに当たっております。そういう意味では、少しずつやはりお客さんもふえてきているというふうに思っておりますので、粘り強く、少しターゲットを絞って、宣伝活動なり活動をさせていただきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

やはりこのジオパークに取り組むには、最初はどうしても市が主導していかないと、民間の力を引き出していくことができないと思うんですが、民間団体の中で、このジオパークに対して報告できるような取り組みというのは、何か出てきていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えいたします。

春先から非常に企業の皆さん、特に法人ですと建設業者の皆さんからのお申し入れも多いですし、それからスタンドをはじめとする石油業者、それから今現在活動を行っているのが、ご協力いただいております理髪業を中心とした理美容関係ですね。理髪、理美容を中心として、少し研修会を深めたいということとか、それから市内の飲食店の皆さんもご協力いただきまして、ジオパーク事業の研修ということで、先週も開催させてもらってきました。

そういう意味では、少し組織を含めた形で、市内の方がそれぞれに手を挙げていただいて、協力体制に入っていただいておりますので、少しずつではありますけど市内の力が蓄えられて、やはり誘客に結びついていくものというふうに信じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

先ほど市長に、ジオパークで糸魚川をどうしたいのかということ聞いたんですが、交流観光課が新しくできて、交流観光課としてのジオパークに関する基本的な取り組み姿勢は、市長の思いを受けているんですが、担当部署としての考え方を聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

## ○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

当課はこの春に交流観光課として、従前あった姉妹都市交流の関係、それからグリーンツーリズムとシーツーリズムの体験の関係、あわせて従来の観光と、それからジオパークの推進室ということで融合されました。そういう意味では、私どもは糸魚川に来ていただくお客様、ドアをノックするお客様に対応してすべての窓を開けて一生懸命対応、ないしは交流人日の拡大に結びつけていかななくてはならないという使命感があるというふうに私どもは自覚しております。

そういう意味で、ジオパークは資源、歴史、文化、そういう極めてストーリー性のある展開がそこにあるとされます。ともすれば今まで単発的で、それぞれ行われていたイベントとか事業をこのジオパークの活動が、ひとくくりにできるというふうに私どもは考えております。非常にそういう意味では、それぞれの個々がやってきたパワーよりも連なったパワー、連携された力というのは、糸魚川市をつくれる材料になりはしないかというふうに考えております。

そういう意味では先ほど市長が申しました、当面の目標であります交流人口の拡大、それが市のにぎわいづくりになっていくんだぞというふうな自覚は十分しております。そういうことを含めまして、にぎわいづくりには、今回最大のチャンスではないかなというふうに課を挙げて思っております。それに挑戦は今しかないというふうに自覚しているところでありますので、こういう気持ちで、気構えで、今後も職務を執行していきたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

## ○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

## ○13番(伊藤文博君)

そういう気構えで、これから仕事に取り組んでいくと。課長は3月まで全く違う部署にいたわけですが、今の責任を負ってみて、課題を感じていると思うんですね。今の目標を達成するには、こ

ういう課題があるというところについて、感じているところをお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

この2カ月ほど担当させていただきました。従前は体験交流を含めて一部で対応していたわけですが、やはり多面的に忙しいなというのが実感であります。非常に各種団体との協議なり、打ち合わせが多いと。それから各事業も非常に頻繁に行われておりますので、そういうものもやはり大切ではありますけども、なかなか運営も含めまして各実行団体と調整というのは数多くなってきました。

ただ、私なりに感じたことを述べさせていただきますと、現在、観光協会も3本になっております。そういう意味では、3本の矢が1本になってこそ、初めて合併の後ですけども、やはりしっかりと力が增強されるんじゃないかなというふうには思っておりますので、こちら辺もしっかり集中して統一した目標を持って、やはり糸魚川市をしっかりと提言なり、宣伝できるような形にしていかなきゃいけない。

もう1つは、特に多くのエージェントさんと機会をともしることが多いです。もう非常に情けない話でありますけど、糸魚川市さんは観光地じゃないですよというぐらいのところから、はっきり言ってボロクソの形でスタートする場面もあります。ただし、それではへこたれておられない。私どもは先ほど話してきたとおり、ジオパークの構想というのがやっぱりそこにあるわけですから、それを1つチャンスにして今後さらなる誘客拡大、それからにぎわいづくりというところに結びつけていかなきゃいけないのかなというふうに思いますし、もう1点、やはり市民対応にもあると思います。

私どもは限られたエリアの中で一生懸命仕事をさせていただきますけども、やはり先ほど話が出てるとおり、市民を含めた糸魚川市全域での受け入れ体制、おもてなしという部分がしっかり根底にないと、やはりリュックをぶらさげた方をたくさん見かけるわけですけども、ただ何となく話をして、何となく帰ってしまうという状況が、ややもすると見受けられるかもしれません。そこで糸魚川の独自性なり貴重な点を1つ、2つ、自信を持って市民がご案内できることが、やはり一番大切なかなというふうに思います。

そういう意味では、そこにかかわるそれぞれのリーダーが、やはり人づくりにもあるんじゃないかなというふうに日常思っておりますけども、それらが合体して初めて糸魚川の総合力として試されている時期ではないかなというふうに思います。そういう中で関連団体、あるいは人とあわせまして、これからも粘り強く展開してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今、課題も多くお聞かせいただきました。その課題をクリアしていくために、今の人員体制でやれるのかどうか。やらなきゃいけないことは、すごくたくさんあると思うんですよね。その中で、やはり人員増強を図っていかなくちゃいけないんじゃないかなと。交流観光課ができたばかりですが、また、市庁舎全体が人員削減の中で厳しい状態ですけど、やはり力を入れなくちゃいけないところには、やっぱり力を注いでいかなくちゃいけないと思うんですが、そういう観点では、現状の人員で大丈夫でしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

今の人員で大丈夫かと言われると、非常に私といたしましては厳しいと思っております。

と申しますのはどういうことかと言うと、やはり今までのいろいろなもののイベントがあります。それに全部行政も関わってまいっておるわけでありまして、そういったところを引き継いで、さらに新しい事業に取り組んだというところが、非常に厳しい状況ではなかろうかと思うわけでありまして。

そういう中で、私はこれからの方向といたしましては、やはり行政がやるべきものと、そして企業の皆様方がやるべきもの、民間の皆様方がやるべきものをしっかり分けて、連携プレーでいかななくちゃいけないんでないかなと思っております。ややもしますと、民間の皆様がやれる部分に対して行政が立ち入りしている部分があるんじゃないか。また逆に、民間の皆様が一生懸命進めるところを、我々がそういったように阻害している部分もあるのではないかな。いろいろなことを考えなくてはいけないわけでございまして、結果的には、糸魚川市全体がよくなることを考えなくてはいけないわけでありまして、やはりもち屋はもち屋、そういったプロ意識を持って皆さんで進めていかななくてはいけない。やはり専門分野の中で精いっぱい活躍することが、生きることじゃなかろうかなと思ってる次第でありまして、ほかの全然能力のないところで活躍せえというのは無理なことでございまして、その辺の整理をすれば、もう少し動きやすくなるのではないかなと思ってる次第

でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

先ほども言ったように、最初はやっぱりどうしても行政主導でいかざるを得ないですよ、民間の活力が出てくるまで。それまでの間はやはり苦しくても、力を注いでいかなければいけない状況だと思うんです、ジオパークのスタートラインは。

人事面については、これはお願いですが、やはり柔軟に対応していただきたいと。年度途中であっても必要があれば、やはりそれなりの対応をしていく。関係課の連携のとり方についても、人の交流を含めてやっていただきたいというふうにお願いしたいんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

なるべくそのような方向でいきたいと思っておるわけではありますが、しかし、我々の職員もそうでございますが、一たんそういう流れをつくってしまいますと、それに頼りかかるという部分があるのではなかろうかと思うわけでございまして、その辺の注意をしないではいけないんだろう。その辺をしっかりと、最初のうちから理解し合いながら進めていかないと、途中で減るとは何なんだと。おまえら力をそぐようなことをするんじゃないかというようなとらえ方も、以前はあった部分もありますので、その辺をしっかりと前段で協議をしながら進めていき、最終的には専門家の皆様方、プロの皆様方から運営していただくのが、一番いいのではないかと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

民間であれば、必要であれば年度のどこでも人事異動させて業務の効率化を図っていくと。市長が言われることも一理あるんですが、そういう感覚が必要だと思いますね。



新幹線開通までの取り組みですが、これはソフト面とハード面と両方あると思うんですよ。ソフト面は先ほど市長が言われて、認知度を高めて交流人口の拡大に取り組んでいくことで、開通後に備えていきたいということがあると思うんですが、例えばハード的に言うと、先ほど話をした案内関係の問題にしても、田原議員の質問の中にもありましたが、今のヒスイ王国館の1階、駅レベルから見ると地下1階のような形ですが、ここでとりあえずやっていったものが、今度開通後はどういう形にもっていききたい。場所とか、そういうのは特定できないにしても、そこに対する基本的な考え方というのが必要だと思うんですが、今、設計に取り組んでいく段階ですから基本理念といいますか、こういう方向性で設計に盛り込んでいききたいというようなことはありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

先ほどから話しているとおり、やはり観光案内所の機能は、そこを利用して生きてくるものというふうに思っておりますので、やはり目につきやすく、利便性がいいということになると思います。

今の場所がどうのこうのということよりも、新駅ができる中で、それらを含めてどこが適切なのかということ、これからしっかり考えなきゃいけないと思いますし、そういう調整は、現時点でも調整に当たっていききたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長(金子晴彦君)

駅周辺のハード的な部分は、都市整備課のほうである程度担当しておるわけですが、駅周辺整備に絡めて例えば自由通路でヒスイ王国館と連絡とりやすくする。それから当然、駅には北側と南側がありますし、今、南側の新幹線駅舎の1階部分の活用についても、そういう駅周辺整備事業の整備の中でどういうことが可能か。また、そこに例えばジオパークの情報等の場を設けるとか、その辺は今度はソフトを統括する交流観光課と調整しながら、進めていかなければならないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今、南口の話が出ましたけど、北口か南口かというのは、非常に大きな問題だと思うんですよ。まち全体の活性化、人の流れを考えていく上でここをやはり慎重に、関係団体の人たちの声も聞きながら、今の観光案内所、サテライトオフィスの場所を協議していくという姿勢を怠ると、ただ建築面の話だけでは決められない話だと思うんですが、その点について考え方はありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

深見産業部長。〔産業部長 深見和之君登壇〕

○産業部長(深見和之君)

お答えします。

南口の関係のジオパークの情報発信等につきましては、初日の一般質問でも若干お答えいたしましたけれども、まず案内所が必要だということで、当面ヒスイ王国館の中で今整備をしてるわけですが、新幹線開業に向けて、また、南口関係の今ほど課長から答弁のありました新幹線下の活用であるとか、レンガ車庫等も含めていろいろあるわけですが、今の段階ではジオパークの情報発信等、ジオパーク関連のものが、南口にも必要でないかというふうには考えておりますけれども、そういうものの機能分担であるとか、両方要るのか等も含めまして、置く場合にはどうするかというようなことも含めまして、今後どういうふうに南口を活用していくかという中で、ジオパークの情報発信をどのように位置づけるかと。また、そのほかの機能を、どのように南口の部分に持ってくるかということも、今後十分に検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

私の心配は、むしろ北口なんです。南口は、もういやが応でも発展していく可能性はありますよね、これからまちの今の構成を見たときに。北口をいかに活性化していくかということを考えていかないと、バランスがとれたまちづくりができないんじゃないかという思いがあるんですよ。そこに対する配慮を、やはりしていただきたいということでお話してるんですが、もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

当然、この駅の通路が北と南になるわけでございまして、どちらもやはり大事であるわけでございまして、我々といたしましては、やはり北には北のよさもあるわけであります。北口といいましょうか、今、口の字の中、非常においでをいただいた方々におかれましても、町並みが非常に落ちついているじゃないか。やっぱりそういったところを見たい部分が出てくるわけでございまして、南口にはそれはないわけでありますので、やはり北口におられる方、そしてまた北口にはヒスイ王国館という以前から頑張ってきた1つの施設があるわけでございまして、そういったところも生かしながら私は進めていく。そして観光案内所といいましても、タクシーの乗り合い場所もありますし、バスも来るわけでございますので、やはり観光案内所の面は、そちらにしっかりと位置づけせないかなんだろうと思っております。

ただ、今の駅の中でどの位置がいいのか、どういう形がいいのかというのは、これからサテライトオフィスができ、そして開業までいろいろと進める段階。そしてまた駅舎の建築の中で、こういったところが一番適地かというのも、また出てくるだろうと思っております。そういう中で、最大限に生かしていきたいと思っております。ですから、決して南はじゃあ何も要らないかということ、そうではないでしょうし、その辺もあわせながら進めていきたいなと思っております。分散型でいくと、力がそがれるという部分もあると思います。そういうようなところもあわせながら、検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

大きな違いは、北口は現に今、商店街があって、そこで生活を営んでいる方々がいて、新幹線駅ができることによって人の流れが変わることで、自分たちのまちが変わってしまうことをやはりおそれているのと、逆に発展してもらいたいというふうに思っているわけですね。

そういう意味で、地元との協議というのは、非常に大事なことだと思うんですが、今後は今の案内所のことだけではなくて駅舎設計に関わって、どういう協議を進めていくのかということについて、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長(米田 徹君)

お答えいたします。

駅の建築に当たっては、いろいろと我々が市民の皆様方とまとめたものを提示させていただきながら、今つくっていただいている段階でございまして、その中においては今ほどご指摘の点というものを、これからの中で描いていかなくちゃいけないわけでございまして、ただ駅舎だけの建築ではないと思っております。

この駅前広場、駅前通り、そして口の字のこの内容というのも、私は大きな要素だろうと思うわけでございまして、ただ駅舎だけをつくってもお客さんはおりないわけでございますので、受け入れ体制というのはどんなものにするのか、そういったところをやはり市民の皆様方、商店街の皆様方から、お聞きしなくちゃいけない点であるわけでございまして、南口につきましては、ある程度のコンセプトでつくっておるわけでございまして、これからまだ仕上げの段階でございまして、その辺はまた地元の住民の皆様方の意向をお聞きする中で、仕上げていけばいいと私は思っております。

ですから地元の皆様方の考え方も、ある程度はその中で生かしていきたい。また、それがなかったらどうなのかということもあるわけでありまして。幸いにして今、駅前通りについては電柱の地中化という事業もありますし、また、アーケードの問題も今取り上げていただいておりますので、それとあわせながら整備ができ、一体感を持った駅をつくっていきたいという考え方でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ハード面の問題と、それからやはり地元商店街の人たちが、ジオパークを契機にどうやって盛り上がっていくかという問題があると思うんですね。それがないと、今お話している協議の話もなかなか進んでいかない。ジオパークを地元浸透させながら、それを盛り上げていく。一部では、やはり盛り上がりを見せながら、大分空気も高まってきていると思うんですが、地元商店街の取り組み状況ですね、今の観光案内所からそういう人の流れを含めて、今後地元と協議していかなきゃいけないという観点の中で、そこを啓発していくということについては、現状はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長(滝川一夫君)

お答えします。

やはり春先からずっと見させてもらっておりますけど、それぞれに事業を行ったときの各地域間連携というのは、まだまだ不十分ではないかなというふうに思います。

自分のとこの事業がやはり主体になっておりますので、市内である程度の事業が展開されるときに、やはり人のにぎわいというのがある程度そこに生じているわけなんで、それを自分のところに呼び戻そう、来ていただくとする努力、それには情報発信が一番大事だと思いますので、そういう意味では私どもも情報発信につなげていきたいですし、それを利活用しようとする商店街なり、そういう気構えの人たちも、また育ててこないとまずいと思いますが、今後もやはりそういう意味での連携をしっかりと図りながら、情報提供なり意見交換をする中で、醸成してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長 吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

新幹線に向けたまちづくりとして、私どもは平成10年以降、いろいろ中心市街地の商店街の方、それから商工会議所の方、それからあと行政といった中で、旧中心市街地活性化の法律に基づいてまちづくりをしてきました。

そういった中で、例えば国土交通省の社会実験を通じて、どちらかというソフト中心、それから、その後を引き継いでまちづくり交付金を使ってみいちゃん通り等、あるいは南本町通り線等のハード整備も含めてやってきました。

そういった中で、このまちづくり交付金事業が平成21年度で一応終了したところでありますが、本年度、また今、中心市街地であります商店街の方々と、この北陸新幹線に向けて、どうやってさらに今後引き続きこの商店街をにぎやかにしていこうかといった構想づくりといったものに取り組むという形で、今働きかけをしている最中でございますので、そういった商店街の方々、それからあと商店街を支援するいろんな団体の方、そして商工会議所と商工団体の方々と一緒になって、まちづくりを進めていかなければならないと思っております。ちょっと今、若干中断している状況でございますけれども、再度構築をしていかなければならないという形で、今働きかけをしている最中

でございますので、よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ある一定の団体と協議していくときに、そこの代表の方が来ますよね、そこといろいろ話をしていく。それが本当に、その地域に浸透した話し合いかどうかということが大事なことなんですよ。

だから今、開通後の問題を協議するのも、やはりそれが本当に地域に情報をおろして、また吸い上げてきているような話し合いになってないとしたら、話し合いの枠組みを変えていくようなことも必要だと思います。これはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長 吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

今ほどニーズなり、あるいは人が変わってくるといったようなご質問かと思うんですけども、やはりここの北口に今いらつしゃるまず商店街の方々が、お客さんを受け入れるためには、一番中心になっていただかなきゃならないというふうに私は考えております。

ですがいまして、そこを指導していただく商工団体であります商工会議所さん、それから今ほどの口の字を形成する商店街、それから、それを支援する団体、そして当然、商店街以外の住民の方も住んでいます。そういった中で、私ども行政も含めて対話を持って、そういった中の意見のまとめをつくっていった中で、そのまとめを出てきた施策なり、そういったものを行政がとりあえずは引つ張って行って、そして民間の活動へつなげていくといった形で、やっぱり計画は進めていかなきゃならないというふうに私は考えておりますし、また、そのように取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長(倉又 稔君)

暫時休憩をいたします。

〈午後0時14分 休憩〉

(午後0時14分 開議)

○議長(倉又 稔君)

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

○商工農林水産課長(金子裕彦君)

お答えいたします。

今ほど吉岡課長が申したところが大枠的などころでございますけれども、駅前、特に北国の商店街の振興につきましては、かねがねいろんな機会を通じて、プランをつくつたりして進めてきております。その中で今回、ジオパークを1つの契機として、また新しい展開が流れてきておると思っております。

そういう中で、本日の質問の中でも何回か出てきております情報の発信というのが、非常に大切だと思っております。1つには、今のヒスイ王国館、それから観光協会での駅前としてのジオパークを含めた情報発信があると思えますし、また、まちの駅で、商店街の中での地域全体での情報発信、これらの情報発信の機能と、また商店街のお客さんが来ていただいて、そこでまた振興するというような流れが大切だと思っております。

その中で、関係してまいりますのは商店街の皆さん、それから住んでいる皆さん。私ども行政の分野ではハードの部分を担当する部署、それから交流観光課のお客さんをお迎えする部署、私どもの商工農林水産課での商店街の振興をする部署、これらの連携。もちろん商工団体も連携していかなければなりませんけれども、そういう連携の中で進めていくということで、現在、商店街、地域の皆さんが主体になりまして、組織づくりを進めておるところでございますので、その組織づくりの中で私どもも行政として支援を申し上げ、進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又 稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

手法的なことも含めていろいろ聞きましたが、基本的にはジオパークで糸魚川市を何とかできるかどうかというのは、やっぱり熱伝導ですよ。熱の発信源は市長ですね。その熱が市民に伝わっていかないと、ジオパークって言つとつたけど、何もないねかと。何かしたいと思ったけど、何すりゃいいかわからんし、そのうち時間もかかっていくねって。しばらくしたら、ジオパークってまだやっとなかねという話になりかねない。

ですから今の話も末端まで熱が伝導していくかどうかということなんですよ。それをしっかり検証していかなくちゃいけない。本当に届いているのかということを検証して、それで一定の枠にとらわれない取り組みの仕方が求められていくわけですよ。

地元の商店街を対象にジオパークの勉強会をやったときも、最初はなかなか集まらなかったと。そこから声かけをしていったら、どんどん集まって100人以上の会になった。これはやはりそこで、その状況に気がついた事務局側が、1軒1軒声かけて歩いたから、そういうことになったということだと思えます。その状況が、集まらないという現象の中で、ああ、まだ浸透してないんだということがわかったから、それに対する対応ができた。その状況を探りながら、やはりずっと熱を伝えていく努力が必要だと思えます。ぜひとも今以上の熱心な取り組みをお願いします。

終わります。

○議長(倉又 稔君)

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

暫時休憩をいたします。